

大英図書館所蔵 イギリス東インド会社文書

英国のアジア植民地
行政 300 年の史料集

East India Company

India Office Records from the British Library, 1599-1947

東インド会社は、その最盛期には世界貿易の4分の1以上を占めました。16世紀初頭、東インド地域を専門とする新興商社として発足した東インド会社は、その後、事実上インドとの取引を独占するに至る一大企業へと成長し、3世紀のもの長きにわたって巨大な勢力を振るいました。東インド会社の歴史は、1600年の創設から1947年のインド独立に至る間の、アジア交易、政治、大英帝国の興隆と没落の歴史そのものです。



Module 7

2025年3月リリース **New!**

India Office Records, F: The Board of Commissioners: Expansion, Control and Education

東インド会社の方針を監督した委員会に焦点を当てるモジュールです。インド統治法（1833年）、第一次アヘン戦争、アフガン戦争、English Education Act（1835年）などを取り上げています。

【グローバル・ヒストリー】 裏面以降もご覧ください→

【価格体系】 FTEにより価格が異なります。価格は概算参考価格(税抜)です。

FTEは人文社会科学系学部の学生数(学部生+院生)より算出いたします。

G.C.19075

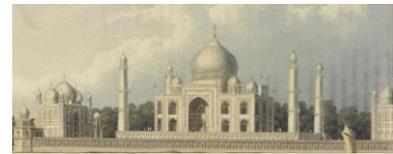
Module (リリース年)	FTE <5,000 (Band 0)	FTE 5,001-10,000 (Band 1)	FTE 10,001-15,000 (Band 2)	FTE 15,000< (Band 3)
Module 1 (2017年)	お問い合わせください ◇ 完全買い切り・アクセスフィー無し ◇ バックアップ HDD 提供可能 (有償) ◇ 同時アクセス無制限			
Module 2 (2018年)				
Module 3 (2019年)				
Module 4 (2020年)				
Module 5 (2022年)				
Module 6 (2024年)				
Module 7 (2025年)				

(Adam Matthew Digital, GBR / 日本総代理店：丸善雄松堂)

- 消費税に関しましては税制の改正に則った内容で対応させていただきます。掲載製品はリバースチャージ対象製品です。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由による価格の変更や掲載タイトルの変更につきましては、予めご了承の程お願い申し上げます。
- お見積もりは、別途ご用命ください。

East India Company

India Office Records from the British Library, 1599-1947



大英図書館所蔵のインド省文書 (India Office Records: IOR) の中核をなすファイルの一大デジタル化事業！

Module I	India Office Records, A - D: Trade, Governance and Empire, 1600-1947
Module II	India Office Records, G: Factory Records for South Asia and South East Asia, 1595 – 1830
Module III	India Office Records, G: Factory Records for China, Japan and the Middle East, 1596 – 1870
Module IV	India Office Records, E: Correspondence: Early Voyages, Formation and Conflict, 1599 – 1947
Module V	India Office Records, E: Correspondence: Domestic Life, Governance and Territorial Expansion, 1699 – 1858
Module VI	India Office Records, F: The Board of Commissioners: Establishment of the Board, 1784 – 1827
Module VII	India Office Records, F: The Board of Commissioners: Expansion, Control and Education, 1828-1842

イギリス東インド会社文書は、東インド会社の初期の貿易、大英帝国の確立期における東インド会社の役割、また、その後のインド各地域における英国王室の統治権等、大英帝国の南アジアにおける活動記録であり、また、海洋貿易、国際商取引、そして、世界初の巨大多国籍企業の記録でもあります。そして、それはグローバル化する世界に生きる人々 — 強大な権力者から、帝国の辺境の市井の人々まで — の記録でもあります。この時代の南アジア政治史・経済史、インド文化、インド史を洞察するうえでも極めて貴重な資料です。大英図書館所蔵のインド省文書は、東インド会社の研究において最も重要な一次資料アーカイブです。

◎高精細なカラー画像で収録しています

主なトピックス

- ・インド、インドネシアおよび日本への進出初期
- ・インド各州、フランスとの武力衝突
- ・海賊との覇権争い
- ・ウォーレン総督の不正告発
- ・ヘイスティングス総督 — 弾劾裁判と無罪の確定
- ・初代マカートニー伯爵の中国使節団
- ・スタンフォード・ラッフルズ卿とシンガポールの台頭
- ・アヘン戦争
- ・インド大反乱(セポイの乱)
- ・統治権の剥奪 — 東インド会社の終焉
- ・ガンジーとインド独立運動
- ・インド国民会議とムスリム同盟
- ・交易品 — 茶、織物、鉱石、アヘン



Letters patent of Charles II to Commissioners of the Treasury, 7 Oct 1672



Proclamation by the Dutch on taking possession of St Helena, 15 Apr 1633.

編集委員

Crispin Bates, University of Edinburgh
Kate Boehme, University of Sussex
Huw Bowen, Swansea University
Jagjeet Lally, University College London
Andrea Major, University of Leeds
Margaret Makepeace, British Library
John McAleer, University of Southampton
Douglas Peers, University of Waterloo
Philip Stern, Duke University

収録文書の一例

- ・インド評議会、取締役会、株主会の議事録類
(Minutes of council meetings (Court of Directors, Court of Proprietors and Council of India))
- ・評議会の草稿、覚書 (Memoranda and papers laid before councils)
- ・理事会決議 (Council resolutions)
- ・収益委員会議事録 (Proceedings of revenue boards)
- ・憲章 (Charters)
- ・各法の条文 (Texts of legislation)
- ・書籍類 (Printed books)
- ・通信文書 (Correspondence)
- ・各地行政機関・軍・教会の職員録 (Lists of administrative, military and ecclesiastical personnel)
- ・取引日誌 (Trading diaries)
- ・顧客名簿 (Patronage books)
- ・帳簿および財務関係書類 (Account books and other financial documents)

Module I: IOR, A - D: Trade, Governance and Empire

大英帝国の貿易と統治

【収録内容】収録年代: 1600-1947年 総ページ数 約 470,000 ページ

IOR/A: The East India Company's charters, deeds, statutes and treaties with related documents, 1600-1947

東インド会社の設立勅許状、証書類、法令および条約集ほか関連資料 (1600年-1947年)

IOR/B: The minutes of the meetings of the East India Company's Courts of Directors and Proprietors, 1599-1858

東インド会社の取締役会および株主会の会議議事録 (1599年-1858年)

IOR/C: The minutes and memoranda of the Council of India, 1858-1947

インド評議会の覚書および議事録 (1858年-1947年)

IOR/D: The minutes and memoranda of the general committees and offices of the East India Company

東インド会社の通常委員会議事録および社内議事録 (1700年-1858年)

IOR/Z: Indexes to selected documents in classes B and D

Class B および D に収録されている文書のインデックス (一部)

Modules II および III には、交易所 (factories, trading posts) の記録を収録

東インド会社の各地交易拠点の役割分担、インド省における国際貿易ネットワーク研究のための重要な情報源となったさまざまな記録であり、人々の日常生活やヨーロッパの貿易商人とアジア社会の交流記録、各地拠点とロンドン間の通信記録、取引日誌、各使節団の派遣記録、地方議会および収益委員会の議事録、東インド会社海軍文書、帳簿類が含まれます。

Module II: IOR, G: Factory Records for South Asia and South East Asia

南アジアおよび東南アジアの交易拠点記録

【収録内容】収録年代: 1595-1830年 総ページ数 約 440,000 ページ

IOR/G: East India Company Factory Records, 1613-1830

東インド会社が設立した交易所の記録(1613-1830)。Module III に含まれる中国・日本・中東以外の記録になります。

IOR/L/PS: Political and Secret Department Records, 1812-1817

政務と機密部門の記録(1812-1817)。

外交・軍事にかかわる機密事項や外交政府との通信など、交易だけでなく、イギリスの外交の代理人としてふるまっていた時代の貴重な記録を含みます。

Module III: IOR, G: Factory Records for China, Japan and the Middle East

中国・日本および中東の交易拠点記録

【収録内容】収録年代: 1596-1870年 総ページ数 約 320,000 ページ

IOR/G: Factory Records for China, Japan and the Middle East (1608-1858)

中国・日本・中東との交易の記録。Module II の内容とは重複しません。

【収録記録一例】

★Factory Records: China and Japan, 1614-1703

★Richard Wickham's copy book of his letters written in Japan and at Bantam, 1614 -1617

★China and Japan: Miscellaneous Documents, 1710-1814

★China and Japan: Diary and Consultations of the Council in China 他多数

IOR/R: India Office Records transferred later through official channels (1832-1870)

公式ルートを通じて送付されたインド省の記録一覧。東インド会社の形式上の消滅 (1874) の直前までの記録を含む。

【収録記録一例】

★Accounts of the Packet Agency at Alexandria, 1838-1869

★Accounts of the Agency: Accounts of the Agent in Egypt, 1838-1869

★Egypt and the Red Sea: Letters received by the Agent in Egypt

★Letters received by the Packet Agent at Suez, 24 Feb 1838 to 11 Dec 1845 他多数

IOR, E: Correspondence を Module IV と Module V に分けて収録

IOR E: Correspondence に分類される文書は、東インド会社、インド監督庁(Board of Commissioners for the Affairs of India)、東インド会社の様々な植民地と、アジア各地の行政管区(Presidency)、英国政府の各省、およびヨーロッパの代理商館(house of agency)間の通信からなり、さらに、嘆願書、覚書、個人からの書簡、陳情団の文書などもふくまれています。

これらの通信とそれに同封された各種書類は、幅広い主題をカバーしています:

- ・17-18 世紀における英国、アフリカ、アジア（インド、中国、日本、中東およびモルッカ諸島）の外交、貿易関係の発展
- ・東インド会社のインドにおける貿易や領土の拡大、財政、政治、軍事、司法、その他統治機能の成長
- ・インド庁を通じた英国政府による東インド会社の監督
- ・17-18 世紀の海上貿易と海における生活
- ・アジアにおけるヨーロッパの帝国の出現と拡大
- ・ヨーロッパ列強とイスラム世界との関係

Module IV: IOR, E: Correspondence: Early Voyages, Formation and Conflict

通信: 初期の航海、形成、紛争

【収録内容】 収録年代: 1599-1947 年

IOR/E より、Subseries E/2、E/3、および E/4 のインドとベンガル管区に関する部分を収録

同社のインド、ベンガル、中東、東南アジアにおける会社運営やインド庁による監督に関する通信を収録しています。東インド会社の起源やその貿易や征服、行政の監督、外交関係、同社が所有していた領地の統治に関するものとなっています。

Module V: IOR, E: Domestic Life, Governance and Territorial Expansion

通信: 国内の生活、政府、領地拡大

【収録内容】 収録年代: 1699-1858 年

IOR/E より、Subseries E/1、E/4 のマドラスおよびボンベイ管区に関する部分を収録。

E/1 は東インド会社が”Home” Correspondence と認識していたいわばマイクロレベルのもので、社内の投資家や他の公的なメンバー、請願者、政府高官等の文書等、より社会史的な利用価値のあるものです。Module 5 の中の E/4 は、東インド会社が関与した領地の統治に関するもので、東インド会社、英国政府省庁、ボンベイおよびマドラス管区との通信を収録しています。

India Office Records, F: The Board of Commissioners は、全 4 Module に分けてリリースされる予定です。

大英図書館所蔵の東インド会社関係資料の中で最も利用者の多いコレクションのひとつである IOR, F は、資料の膨大さから大英図書館内でも別々に保存されてきた資料が含まれており、デジタル化により一堂に閲覧できる意義は大きいと言えます。

Module VI: IOR, F: The Board of Commissioners: Establishment of the Board

委員会の設立

【収録内容】 収録年代: 1784-1827 年

18—19 世紀の東インド会社の運営、東インド会社がインドで支配的な力を持つにいたる過程において影響力のあった委員会に関する資料を収録。

【収録記録一例】

★Letters regarding vaccination in Bengal IOR/F/4/427/10455

★Letters discussing the sample of Bourbon cotton sent to the Directors IOR/F/4/840/22475

★Material about the establishment of Hindu Colleges at Nadia in Bengal IOR/F/4/408/10172

★Communications between the Nepal government and the Court of the Chinese Emperor at Peking IOR/F/4/809/21721

★Discussion of the plants and seeds sent from the Calutta Botanic Garden to the Royal Botanic Gardens at Kew IOR/F/4/540/12989

★Documents relating to the introduction of new native commissioned rank of Subador Major IOR/F/4/565/13914

BL/IOR/F/4/722 と BL/IOR/F/4/882 は原資料の状態により、本データベースには収録されていません。

Module VII: IOR, F: The Board of Commissioners: Expansion, Control and Education**委員会の拡大、監督、教育****【収録内容】** 収録年代: 1828-1842年

法律と教育の分野において、イギリス東インド会社が影響力を拡大した過程をたどるモジュールです。インドの奴隷制問題に関するインド法委員会の議事録、奴隷にされた人々の虐待を罰する法律案の草案、インドにおける憲法制定に関する文書、Captain Jenkins の私的な日誌、刑事事件の報告書、Mysore の行政に関する文書などを収録。

【収録記録一例】

IOR/F, Correspondence and papers of the Board of Commissioners

IOR/F より、委員会の通信から成る 578 の文書を収録。

- ★Proceedings of the Indian Law Commission regarding the question of slavery in India. Includes, on page 187, a draft of a proposed Act penalising the maltreatment of enslaved people (IOR/F/4/1765)
- ★Correspondence regarding the outlawing of aiding Sati tradition and practice (IOR/F/4/1525)
- ★Papers regarding the passing of significant constitutional laws in India in 1833-1835 (IOR/F/4/1551)
- ★A Letter to the Right Hon. Sir Henry Hardinge KCBMP on the Effects of Solitary Confinement, on the Health of Soldiers, in Warm Climates (IOR/F/4/1584)
- ★Extracts from a Private Journal Kept by Captain Jenkins on his late tour through Cachar, including sketches (IOR/F/4/1446)
- ★Papers regarding the administration of Mysore, including returns of criminal cases for 1834-1835, and a diary of the proceedings of the Mysore Commissioner, Lieut. Colonel Mark Cubbon (IOR/F/4/1588, IOR/F/4/1589)

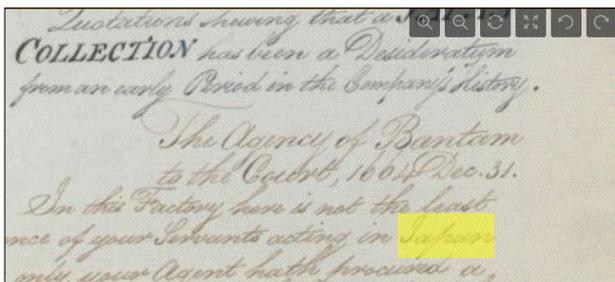
～東インド会社とイギリスによるインド統治～

東インド会社は、エリザベス I 世からの勅許状によって設立され、東南アジアへの最初の航海と「スパイス・アイランド」と呼ばれたインドネシアでの初期の交易、日印貿易、海賊や敵対国と激烈な争いを繰り広げました。18 世紀中盤、東インド会社は独自の海軍兵力を擁するようになります。また、貨幣の鋳造、刑法整備などによりインド統治を進めていきます。その一方で、商取引に国際ネットワークを取り入れ、世界貿易の 4 分の 1 以上を占めるに至ります。19 世紀にはいと、東インド会社は、外交問題、インド各地での反乱など深刻な危機に見舞われますが、その一方で、中国に対する紅茶とアヘンの輸出という新たな収入源を得ていきます。1857 年に「インド大反乱」が起きるも、これを 1858 年までに鎮圧します。以降、インドの統治権はイギリス国王に移り、インドは 1947 年の独立までイギリス政府の統治下に置かれるようになります。

手書き文字認識 (Handwritten Text Recognition = HTR) 搭載!

HTR の技術により、収録されている手稿資料のフルテキスト検索が可能です。HTR とは、人工知能 (AI) を用いることで、文書中の手書き文字の組み合わせを特定する機能です。

例: 「Japan」 キーワード検索



↑ 資料表示画面

検索ワードがハイライトされ、表示されます。

収録資料の多くは手稿であるため、検索性を高める工夫が施されています

of English woollens in Japan. The Clove, a ship of the Company's eighth voyage to Farrington, The English Factory in Japan, 1613-1623, 2 vols (London, 1991); Cf

Image Results

Image [Unpaginated] - 2 hit(s)

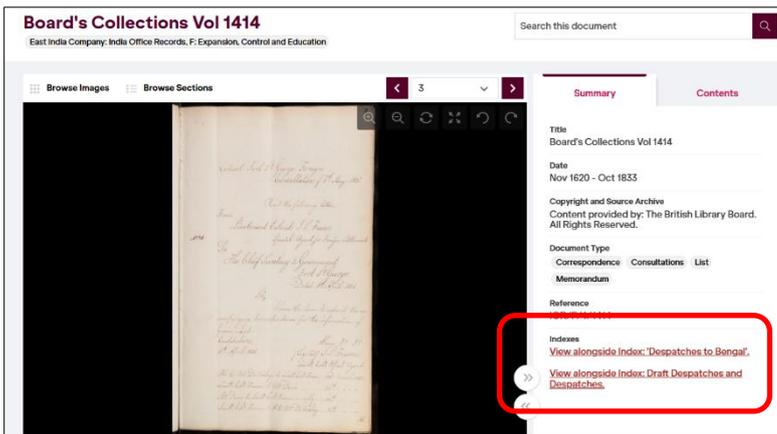
Image [Unpaginated] - 1 hit(s)

Image [Unpaginated] - 4 hit(s)

サムネイルをクリックすると各ページが拡大表示されます。

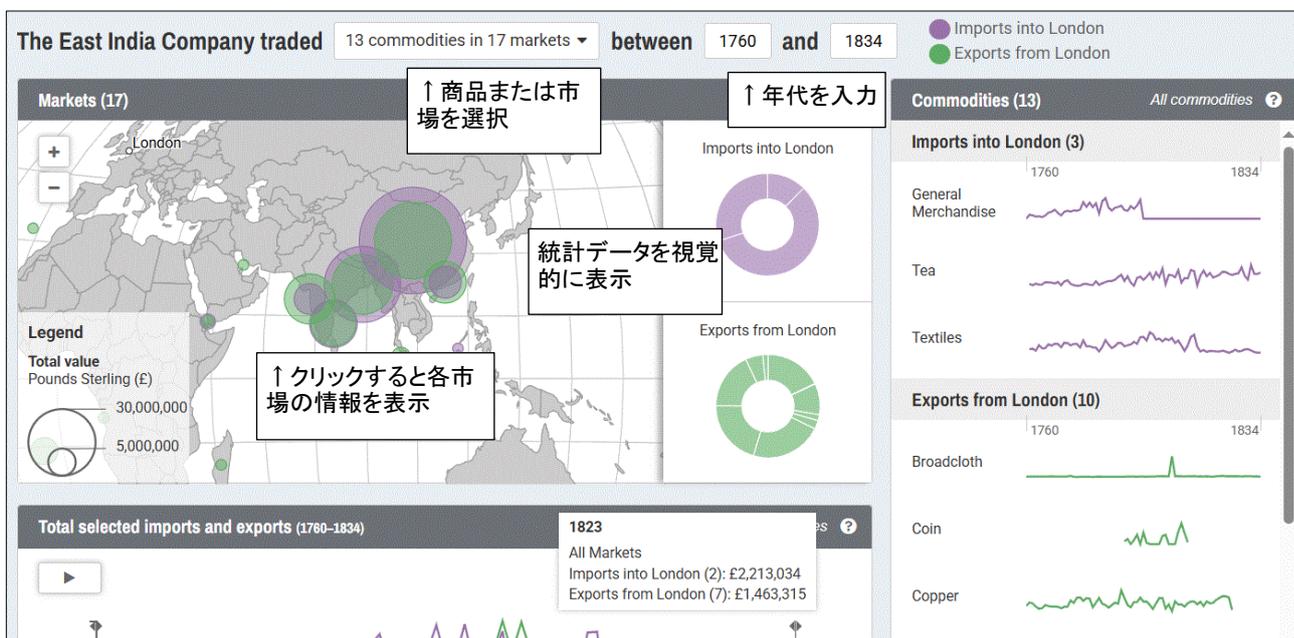
↑ 書誌情報表示画面

検索ワードがヒットしたページの該当箇所が切り抜きで表示されます。見たい画像をクリックすると、個別のページの画像に飛びます。



↑ 年代別、資料の分類別、主要人物や出来事に関する年代からも資料を閲覧できます。

↑ 収録資料の多くには、インデックスが作成されています。



↑ 1760年から1834年までの東インド会社の貿易データを搭載しており、地図とグラフ上に表示することができます。

Alternative Place Names

Many of the places featured in the East India Company's Factory Records and correspondence have been known by a variety of different names. Often, original names were transcribed by Europeans in a number of ways; sometimes European languages developed their own distinct names.

This table is intended to help the user identify places of interest by listing some common alternative names for the locations of the Company's factories, and settlements mentioned within the documents. It should not be taken as exhaustive.

Place name used in the India Office Records catalogue (sub-class reference)	Factory, if different from place name (sub-class reference)	Other names
24 Pergunnahs		24 Parganas; Twenty-Four Pergunnahs
Aboothabee		Abu Dhabi
Achin	Sumatra (G/35)	Aceh; Acheen; Acheh; Atjeh
Agra		Akbarabad
Ahmadabad		Ahmedabad
Ahmednagar		Ahmednagar; Ahmadnagar

← 地名の多くがヨーロッパの言語を含め複数の名前が使用されてきたことをうけ、一般的な別称などを表にしています。